

平成30年度 幼稚園 学校評価結果公表シート

学校法人 専修学園
高田幼稚園

当園ではこの度、平成30年度の幼稚園評価として教職員自己評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、現状を見つめ直す良い機会となりました。また、それぞれの評価結果について皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この評価結果を深く受け止め、更なる「教育活動の充実・教育環境の整備・教職員の資質向上」に努めてまいります。

I. 教育目標

当園は、真宗高田派の仏教園として親鸞聖人の教えを受け継ぎ、命の尊さに気づき、思いやりと感謝の気持ちを持てる子として成長できるよう、「はっきりと挨拶ができる子・自分の気持ちを相手に伝えられる子・ゆたかな情操をもった子・だれとでも仲良く遊べる子・感謝の気持ちを忘れない子・たくましい体力をもった子」を教育目標として掲げ、日々の保育に取り組んでいます。

II. 今年度の重点目標

ア 教職員の資質向上 イ 園全体の保育の向上 ウ 配慮が必要な子どもへの対応
エ 安全管理体制の強化 オ 保育環境について カ 職場環境について

III. 評価項目と取組み状況

自己評価項目		取組み状況
ア	1 質の高い保育を行うため、日々自らを振り返り、幼稚園教育要領及び自園の保育目標に沿った見直し・改善を行っているか。	日々の自らの保育を振り返り、自園の保育目標に照らし合わせた上で課題を見つけ、見直し・改善を行い、質の向上を図ることができた。また日々の保育に追われる中でも、職員同士で指摘・アドバイス・相談をしながら行うことで、さらに見直し・改善に努めるよう取り組んでいる。しかし幼稚園教育要領については、まだまだ理解を深められていない部分も多いので、今後の課題として取り組んでいく。
	2 より良い保育を行うため、教職員間や保護者との連絡を密にし、良好な関係を築けるよう努力しているか。	教職員間では、日頃から積極的に情報を共有することで、今後の保育へのつながりを考えることができた。また満3歳児は複数担任のため、一層コミュニケーションを密にしなければならない。保護者とは、家庭訪問・保育参観・懇談会や、毎日の送り迎えの際に普段の子どもの様子を伝え、共通した理解のもとに保育を行うよう努めている。今後は、会う機会の少ない保護者や苦手意識を持っている保護者に対しても、参観や懇談などの機会を利用して良好な関係を築いていきたい。
イ	1 園の一員として、自発的に年間行事の日程・内容を見直し、園全体の保育の向上を図っているか。	内容については、運動会や生活発表会をはじめ、行事が終わるごとに職員各自がそれぞれ反省・見直しを行うことができ、園全体の保育の向上に繋げることができている。しかし、日程については職員各自が受動的であるので、今後は積極的に意見を出し、参画しなければならない。そして、近年の気候の変化や地域の行事等も考慮に入れ、子どもたちが十分力を発揮できるような機会を与えられるよう行事予定を検討していきたい。

平成30年度 幼稚園 学校評価結果公表シート

学校法人 専修学園
高田幼稚園

自己評価項目		取組み状況
ウ	1 園児について園と保護者で情報共有し、行政・医療機関・専門家等への橋渡しとなり、将来を見据えた支援を行っているか。	配慮の必要な子に関しては、家庭と連携しながら保育を進めている。園医に相談したり、行政・担当医・専門家に様子を見てもらう機会を作ることで、具体的な支援に繋げることができた。また保護者の希望に応じて療育や就学前相談等への橋渡しも行っている。満3歳児については、必要に応じて3歳児健診の前に予め保健センターに連絡し、後日見解を聞き保育の参考にしている。普段から保護者とコミュニケーションを深め、相談しやすい環境を整えるように努めることができた。
エ	1 園の内外を問わず、地域住民との交流を深め、災害発生時等に助け合える関係を築いているか。	日々の挨拶や会話を通して、また、病院への慰問や地域のイベント等に参加することで地域住民との密接な関係作りに努めている。卒園児やその保護者を見かけたときには積極的に話しかけ、園の様子を話したり園の行事に誘うなど、卒園後も良い関係が継続できている。地域防災訓練、清掃活動等には一部の職員が参加するのみに終わっているので、今後は園全体で参加し、地域の一員であるという意識を持てるようにしたい。災害発生時等には地域の協力が得られるように、より良い関係を築いていきたい。
オ	1 高田本山 専修寺にある幼稚園という環境を活かし、情操教育やゆとりのある保育を行い、園児・教職員・保護者の心の成長につなげているか。	自然豊かな高田本山専修寺の境内にあるという立地を活かし、散歩や落ち葉拾いなど、四季折々の自然や生き物と触れ合うことができている。また、仏様の見守りの中、命の尊さに気づき、感謝や思いやりの気持ちも育まれ、情操教育や心のゆとりにも繋がっている。これからも、季節感のある保育を心がけていきたい。今後は保護者の本山参詣なども充実させ、自然や地域の文化に触れ、仏教の精神を理解し、心の成長に繋げて欲しい。
カ	1 教職員それぞれがお互いを尊重し合い、自由に意見を出し、話し合える人間関係が築けているか。	以前より、職員同士が話しやすく相談しやすい関係が築け、お互いを尊重し助け合うことができている。しかし職員会議などでは発言者が限定され、全員が自由に意見を出し合うまでには至っていない。また時間的な制約もあり、細かい話し合いも行えていないので、今後は、各職員がそれぞれの立場での意見を出しやすい環境作りを模索していきたい。
	2 有給休暇、育児休業等を取得しやすい雰囲気づくりに努め、勤務しやすい環境を整えているか。	有給休暇を申請する体制が整い取得しやすくなった。しかし、休暇を取った時に助け合える環境や雰囲気はあるものの引け目を感じることもあり、特に行事の立て込んでいる時期などはその傾向が顕著である。代わりに保育を行う職員との連携や配置にも課題があるので、職員同士がフォローし合える人間関係を築いていく必要がある。

IV. 総合評価

A：出来ている

C：一部出来ていない

B：おおむね出来ている

D：出来ていない

B	前年度に評価委員から出された意見も項目の中に取り入れたところ、各教員が学校評価の主旨をよく理解した上で主体的に取り組むことができた。その結果、各項目について概ね達成できたと評価している。達成できなかった点については、引き続き今後の課題として取り組み、達成を目指す。重点項目「ウ」については概ね達成できたと思う。
---	---

平成30年度 幼稚園 学校評価結果公表シート

学校法人 専修学園
高田幼稚園

V. 今後取り組むべき課題

ア	1		自己流の保育にならないよう幼稚園教育要領を学び直し、理解を深めた上でより質の高い保育の実践につなげたい。
	2	教職員の資質向上	職員同士はもちろん、保護者との連絡を密にし、職員・保護者が一丸となって、子どものより良い成長を目指した保育を行いたい。
	3		園長・副園長・主任・副主任及び各リーダーを中心とした体制で臨み、保育の質・職員の意識の向上を図りたい。
イ	1	園全体の保育の向上	職員が毎年の反省を共有し、継続的に年間行事を見直すことで、子どもたちが楽しく参加できるよう行事の充実を図り、保育を向上させたい。
ウ	1	安全管理体制の強化	地域防災訓練・清掃活動等には園全体で参加し、地域の一員としての園の存在を認識してもらうことで、園児の避難時には協力を得られるような態勢を整えたい。
	2		園児の嘔吐・下痢等について、感染症対策の観点から適正に対応・処理ができるよう、研修等への参加や園内研修の開催を通して、正しい知識を得るための取り組みを行いたい。
エ	1	保育環境について	保護者に仏教の精神や当園の教育目標を分かりやすく伝え、各家庭でも当園の保育方針を理解し、協力してもらいたい。
オ	1	職場環境について	職員がそれぞれの立場で気兼ねなく意見を出し合える環境を整え、全員が積極的に発言できる場を作っていきたい。
	2		働きやすい職場環境を目指して、休暇を取得しやすいよう就業規則を見直すとともに、良好な人間関係を築いていきたい。

VI. 学校関係者の評価

- ◎ バス通園児や普段あまり連絡を取る機会のない保護者にも、手紙や電話などで子どもの様子を伝えてほしい。
- ◎ 今後も保護者の意見・要望を聞き、思いを受け止めた取り組みをしてほしい。
- ◎ 高田本山や地域とも協力し合って、園運営を行ってほしい。
- ◎ 駐車場の出入りをスムーズにするため、フェンスを広げたり車を一方通行にするなど工夫をしてほしい。
- ◎ 仏教園として、毎年テーマを決めるなど、仏教を生かした保育を行ってほしい。
- ◎ これからも教職員の心のつながりを大切にし、より良い雰囲気作りに取り組んでほしい。

VII. 財務状況

公認会計士監査により、適正であると認められている。